

市川市が大きな被害を受けた空襲

昭和20年2月25日の空襲は、市川市域において最も物的な被害の大きいものでした。

アメリカ軍にとってこの日の空襲は、東京大空襲の前触れと言えるもので、東京市街地を目標に焼夷弾を中心とした爆撃を行いました。

しかし、この日は雪模様の悪天候で、従来通りの高い高度からの爆撃であったため、市川市域へ東京方面で落とし残した焼夷弾や爆弾が多数落とされて、午後2時過ぎに八幡や中山周辺の市街地に最初の被害があり、続いて市川新田周辺にも被害がありました。

空襲を受けた中山周辺



現在の中山周辺の様子



空襲を受けた新田周辺



現在の新田周辺



この空襲で少なくとも72軒の家屋が全焼し、1軒の家屋が全壊しています。

このような状況下で警防団員や隣組員は防火活動に従事し、消防自動車による注水なども行われ、消火活動が行われましたが、多数の焼夷弾による火災を防ぐには限界があり、こうした被害が発生しています。

空襲警報
発令中看板



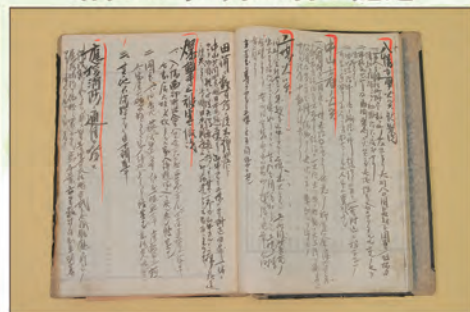
消火訓練の様子



空襲日誌



昭和20年2月25日の記述



戦中日誌



昭和20年2月25日の記述

